

目次

目次 / 水害ハザードマップについて	1
水害ハザードマップの使い方	2
浦安市でおこる水害の種類	3
5段階の警戒レベル	4
浸水継続時間図 浸水到達時間図	5
水害が発生したらどうなるの？	6
台風がきたらどうする？	7
避難前に確認すること①	8
避難前に確認すること②	9
待避所等に避難する場合の注意	10
避難所等の役割	11
自宅で避難（在宅避難）する場合の注意	11
避難行動判定フロー	12
情報の収集 / 浦安市防災アプリ	13-14
待避所一覧 ペット待避所一覧	15
マイ・タイムラインをつくろう	16
避難行動要支援者支援	17
浦安市水害ハザードマップ / マイ・タイムライン	別紙

洪水ハザードマップで想定している「江戸川」とは、浦安市上流域にある「江戸川放水路」のことを指し、本市を流れる「利根川水系旧江戸川」のことではありません。

浦安市では3種類の水害について、ハザードマップを作成しています。浸水する場所や深さ、いざというときに避難できる公共施設（待避所）などが記載されています。
本冊子の末尾に水害ハザードマップを付属しておりますのでご確認ください。
なお、ハザードマップ上で最大浸水深の表記がない箇所（浸水想定区域外）であっても、気象条件や堤防・雨水排水施設が正常に機能していない場合など、浸水が生じる可能性があります。決して、「避難をしなくてもよい」と推奨している訳ではありません。

1. 洪水ハザードマップ

大雨が降り続き河川の水位が上昇することによって、堤防が決壊し、洪水が発生したときの災害避難地図です。

本市では「江戸川」、「境川」、「見明川」、「猫実川」、「堀江川」を対象に洪水ハザードマップを作成しています。

※「旧江戸川」は千葉県による氾濫解析の結果、浸水域がないとされているため、作成の対象としていません。

2. 高潮ハザードマップ

台風などの発達した低気圧が近づき、気圧や風の影響で東京湾の海面が堤防を乗り越えるほど上昇して【高潮氾濫】が発生したときの災害避難地図です。

本市では2つの想定を用いて、2種類の高潮ハザードマップを作成しています。

3. 内水ハザードマップ

局地的大雨等により雨水の排水能力が追いつかず【内水氾濫】が発生したときの災害避難地図です。本市では1時間最大雨量 153mm が本市で生じた場合の想定を用いて、内水ハザードマップを作成しています。

水害ハザードマップの使い方

この水害ハザードマップを使って、いざというときに備えましょう。

使い方 | ① "知る"

お住まいの地域は、どのような水害の危険性があるか確認しましょう

大雨・台風時にはどの河川の氾濫により浸水するか、高潮の影響を受けるおそれがあるかなど、ハザードマップで確認しましょう。

注意 被害想定がない区域においても、状況に応じて避難を考えましょう。

使い方 | ② "気づく"

想定される水害に応じて、避難のタイミングと避難先を確認しましょう

気象庁が発表する防災気象情報や、市が発令する避難情報によって、とるべき避難行動は変わります。状況に応じた適切な避難行動を考える重要性に気づき、避難のタイミングや避難先を確認しましょう。

早めの避難先

たとえばこんなところへ・・・

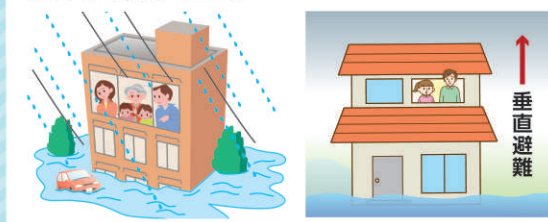
- ◎親せき・知人宅など、市内に限らず、浸水区域外の、より安全な場所
- ◎自宅が安全である場合は、自宅にとどまる「在宅避難」も有効



逃げ遅れたときの避難先

たとえばこんなところへ・・・

- ◎高くて丈夫な建物や高い場所
- ◎自宅の高いところ



いざという時のために、ご自身であらかじめ避難先や避難経路を確認しておきましょう
また、裏表紙の「緊急時の連絡先」や「私（家族）の避難先」に書き込みましょう

使い方 | ③ "考える"

日ごろの備えを確認し、マイ・タイムラインを作成してみましょう

「マイ・タイムライン」とは、大雨や台風などの風水害に備えて、一人ひとりの生活の状況に合わせた避難行動（自分の逃げ方）を考えておくものです。

災害時には様々な情報が発信されます。いざというときにすぐ行動できるよう、掲載している情報や、マイ・タイムラインを活用し、避難行動を整理することで、日ごろから備えについて考えましょう。

※マイ・タイムラインは巻末の別紙参照